

二二四一番

このころの 秋あきの朝明あさけに 霧きり隠こもり 妻つま呼よぶ鹿しかの
声こゑのさやけき

二二四二番

さ雄鹿をしかの 妻つまととのふと 鳴なく声こゑの 至いたらむ極きはみ
なびけ萩原はきはら